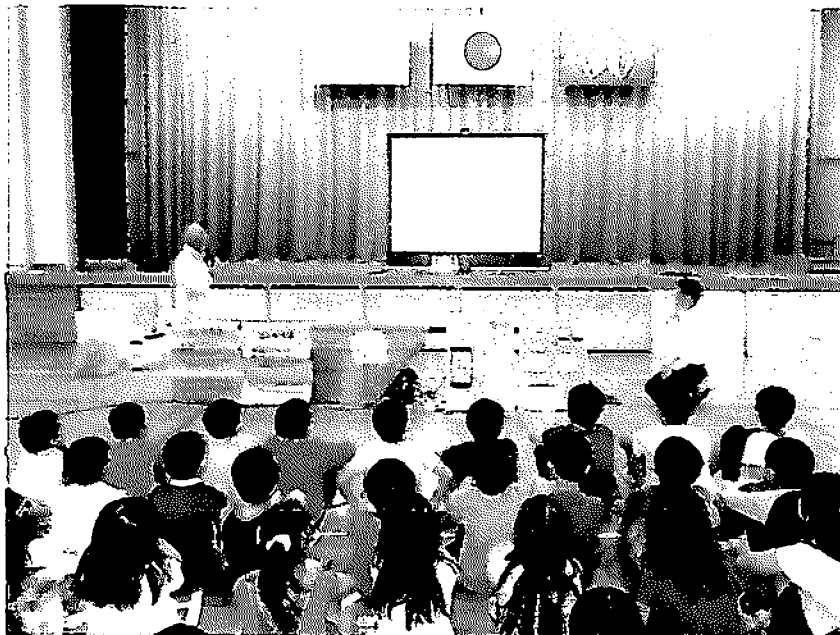


主体的に考え、実践しようとする社会科学習の在り方
～第4学年 「ごみのしよりと利用」を題材として～



1 研究主題

主体的に考え、実践しようとする社会科学習の在り方
～第4学年 「ごみのしよりと利用」を題材として～

2 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

本単元は、新学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

目標(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員として自覚を養う。

内容(2)

ア(イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。

(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

イ(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。

これまで児童は、「スーパーマーケット」の学習を通して、「リサイクルコーナーの活用」「環境を守るためのとりくみ」など、自分たちの環境は多くの人々の知恵と尽力によって、支えられていることを学習してきた。

今回は、ごみ処理の問題を身近に感じるようにと、1学期に印西市クリーン推進課によるごみの選別方法を学び、2学期には、身近にあるがあまり知られていないリサイクル業者、印西クリーンセンターの見学を行い、処理方法やごみの量と人口の推移を考え、どのようなとりくみがなされているのかを考えるようにした。これらの学習を通して、ごみ問題をより身近に考え、その意識を高めていけるようにしたい。

(2) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

印教研研究主題である「生きる力」とは、「学習したことを基に、自分のこととして捉え関わっていく姿」と捉える。

そこで、本研究では、地域教材を取り入れたごみの処理と利用についての学習を通して、地域のできごとや問題を自分のこととして捉えさせることが「生きる力」につながると考え、本研究主題を設定した。

この研究を通じて、ごみ処理問題について考え、自ら課題を見出し、自分の考えを実践につなげていくことができる児童の育成の一助にできればと思う。

(3) 先行研究より

本実践は、第64次印旛地区教育研究集会 印西市立原山小学校 金澤 康太氏の先行研究を参考とした。金澤氏は成果として、「地域教材を調べることにより、社会的事象に関心をもち、興味・関心が高まった。また、そこから新たな疑問が生まれ、主体的に調べることができた。」と述べている。この点を参考にして授業を組み立てていく。また、第67次印旛地区教育研究集会 印西市立小倉台小学校 細川 大志氏の先行研究では、「地域教材を教材化すれば、地域や社会の課題を自分の身近な問題として捉え、社会参画力の基礎が育つであろう。」という仮説のもと取り組んでいた。その方法を参考にしたい。

(4) 児童の実態より (平成29年度 4年1組 男子19名 女子16名 計35名 平成30年度 4年1組 男子14名 女子15名 計29名)

児童の実態を調査するために実施したアンケート結果は資料の通りである。(資料編1)

29年度の児童は、社会科への関心が高く、授業も意欲的に取り組む。しかし、調べ学習については、そのやり方や資料の活用の仕方をどうすればよいのか分からない児童が多かった。そのため、発表の際には、グラフや写真などを入れて発表することを伝えていくこととした。

30年度の児童は、学習したことを吸収する力は高いが、社会科に対する相対的に低かった。また、グループ活動が苦手であり、友達と共に調べ学習をしていると、まとまらないことが多々あった。何を問われているのか、何をまとめるのかを個別指導が必要な児童が4名程いた。

最初は地球環境の話から迫ることとし、パワーポイントで写真を使いながら、ごみの影響で、自然界だけではなく、我々人類にも影響が及んでいることを伝えるようにしていく。その後、地域ごとに異なるごみ集積所の写真を見せ、帰り道に寄ってみよう促していく。また、印西市クリーン推進課にも協力して頂き、ごみの分別の仕方を学ぶことで、意欲が増し、自分にもできることを考えていくようになるだろうと考え、本研究主題を設定した。

3 主題について

本実践の研究主題は、「主体的に考え、実践しようとする社会科学習の在り方」である。この場合の「主体的」とは、児童が身近な地域の問題に気付くことから始まる。それらの問題に対して関心をもち、もっと詳しく調べたい。問題を解決していきたい。という意識を高めていくことと捉える。

また、「実践しようとする」とは、これらの関心をもった問題に対して自分事として捉え、具体的に自分が何をすれば良いかということを考えていくことと捉える。一般的に「実践しようとする」という場合、行動を起こすことに重点を置くことが多いが、小学校第4学年という発達段階を考えた場合、具体的な行動を起こすことまでをねらうことは難しい。そこで問題に対していかに切実感をもって、どのような行動をしたら良いかを考えたり、行動したいと考えたりすることまでを「実践しようとする」と捉えることとする。

以上の「主体的に考え、実践しようとする社会科学習」を行うことによって、印教研研究主題である「自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成」につながるのではないかと考える。

4 研究目標

身近ではあるが、自分たちの小さな意識で、実践しようとするのできる教材を扱うことにより、社会の関わり方について考え、主体的にとりくむことができることを、実践を通して明らかにする。

5 研究仮説及び手立て

【仮説1】

身近な地域の教材を活用することにより、地域の問題に関心をもち、主体的に問題解決しようとするであろう。

印西市クリーン推進課によるごみの分別の仕方、リサイクル業者の見学、印西クリーンセンターの見学を通じて、ごみを分別することが地域の問題であり、身近な問題として捉えやすくなると考える。また、ここで学習したことをもとに、地域の問題は、自分の問題でもあると意識をもちやすくなるであろう。

今回の学習指導要領の改訂の中で、第4学年内容(2)「ごみの処理と利用」では、ア(イ)及び、イ(イ)では、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けること、とある。

身近にあるが、知らないごみのリサイクルや処理をしている業者を見学することにより、働く人の大変さを感じ、自分事として捉えるようにしていく。ごみの分別や減少に向け、小さな努力で自分にできることがあるということを学んで欲しいと願い、印西市クリーン推進課による出前授業や、リサイクル業者見学、印西クリーンセンター見学を取り入れた。

手立て

- ① 印西市クリーン推進課による出前授業→分別の仕方
- ② リサイクル業者見学→リサイクル及び働く人の苦勞
- ③ 印西クリーンセンター見学→印西市のごみの処理の仕方

【仮説2】

疑問に思ったことを探究することにより、地域の問題を自分のこととして捉え、実践しようとする力が育つであろう。

自分たちの身近にある「ごみ集積所」に、多くのごみが集められていることを知ることで、そのごみはどこへ行くのかという疑問をもつだろう。また、自分の家や友達の家、学校からでるごみの量を調べることで、地域のごみについて関心が高まると考える。

さらに、身近にごみを処理する施設があることを知り、見学することを通じて、ごみはただ捨てるだけのものではなく、リサイクルされていることを知り、改めて関心をもつだろう。また、実際に目の前で空き缶がプレスされる様子やスプレー缶やびんの処理の仕方などを見学したり、働いている人の話を聞いたりして、地域の問題を自分の事として捉えていこう。

また、グループで話し合う活動を行い、友達の意見を聞くことで、新たな問題を見つけ、主体的に問題を解決していこうという気持ちが高まり、行動しようとする児童が現れると考える。

このことにより、地域のごみ問題について自分のこととして捉え、自分にできることを実践しようとする力が育っていくだろう。

手立て

- ① プレゼンテーション(ごみ集積所の写真や地球環境の問題) ※30年度のみ
- ② ごみ調べ(家庭・学校) ※30年度のみ 29年度は教科書を使用
- ③ グループ発表

6 研究構造図

目指す児童像

- 印西市のごみ問題に関心を持ち、自分にできることを考えたり、実践しようとしたりできる子。
- 廃棄物処理の仕組みを理解することができる子。

変容の願い

自分の地域や社会に関心を持ち、地域や社会の問題を身近な課題と捉えることができる。

廃棄物処理の事業が果たす役割を理解し、人々の健康や生活環境の維持と向上に役立っていることを理解することができる。

自分の地域や社会の問題を自分事として捉え、その解決方法を考えたり、実践しようとしたりすることができる。

手立て

- ・パワーポイント資料をもとにごみが地球環境に多大な影響を及ぼしていることについて関心をもたせる。
- ・ごみ集積所の様子からごみの行方について、関心をもたせる。
- ・家庭や学校からでる、身近なごみの現状について調べることを通して、地域のごみ問題に関心をもたせる。
- ・印西市クリーン推進課による授業で、ごみの分別方法について体験を通じて理解させ、「なぜ分別が必要なのか」、「分別されたごみはどのように再利用されるのか」ということについての見通しをもたせる。
- ・リサイクル業者の見学を通して、ごみの処理や再利用の仕方について知る。
- ・印西クリーンセンターの見学を通して、印西市のごみ問題について知り、自分事として捉えさせる。
- ・調べたことやまとめたことをもとにして、自分にできることを考えグループで発表させる。

研究主題

主体的に考え、実践しようとする社会科学習の在り方
～第4学年 「ごみのしよりと利用」を題材として～

主題を支える学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力、人間性等の涵養
<p>・廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できる。</p>	<p>・廃棄物処理のための事業の様子について、処理の方法や、再利用の方法、関係機関や人々の協力はどうなっているのか調べたことを考え、表現できる。</p>	<p>・よりよい地域社会の実現のために共に努力し、協力しようとする意識をもつことができる。</p>

7 研究実践

(1) 単元名 「ごみのしよりと利用」

(2) 単元の目標

- ・ごみの処理と自分たちの生活や産業との関わりを理解することができる。
(知識及び技能の習得)
- ・ごみの処理に関わる対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現することができる。
(思考力・判断力・表現力等の育成)
- ・地域のごみ問題について、自分にできることは何なのかを考えようとしている。
(学びに向かう力・人間性等の涵養)

(3) 単元計画 (14時間扱い)

学習過程 (時数)	○主な学習内容 H29	○主な学習内容 H30
つかむ (2)	○印西市クリーン推進課の方に来て頂き、ごみの分別の仕方を学ぶ。 仮説1 ・正しい分別をすれば、ごみとならず資源として利用できる。 ・3R活動が大事。	○パワーポイント資料で、ごみ問題が地球環境に多大なる影響を及ぼしていることを知る。 仮説2 ○ごみ集積所の写真を見せて「大量のゴミはどうなるのだろうか」ということを話し合う。
	○ごみ集積所の写真を見せて「大量のゴミはどうなるのだろうか」ということを話し合う。	○印西市クリーン推進課の方に来て頂き、ごみの分別の仕方を学ぶ。 仮説1
調べる (8)	○ごみの分別について調べる。(家や学校)	○ごみの分別について調べる。(家や学校) 仮説2
	○ごみはどのように収集されるかを知る。 ・決められているごみ集積所に集められる。 ・燃やせるごみ、燃やせないごみ、有害ごみ、資源物など、ごみによって集める日が異なっている。	○ごみの行方を考えることを通じて学習問題をつくる。 Ⓞごみをへらすために、自分にできることは何だろうか？
	○ごみの行方を考えることを通じて学習問題をつくる。 Ⓞごみをへらすために、自分にできることは何だろうか？	○ごみはどのように収集されるかを知る。
	○リサイクル業者見学を通じて、資源物がどのようにリサイクルされるかを知る。 仮説1 ・スプレー缶はきちんとガス抜いていたこと。 ・缶はちゃんと洗っていたこと。 ・瓶は色分けしていたこと。	○リサイクル業者見学を通じて、資源物がどのようにリサイクルされるかを知る。 仮説1

	○クリーンセンター見学を通じて、燃やせるごみや燃やせないごみの処理方法を知る。 仮説1	○クリーンセンター見学を通じて、燃やせるごみや燃やせないごみの処理方法を知る。 仮説1
	○燃やした後の工夫について調べる。	○燃やした後の工夫について調べる。
	○再利用について調べる。	○再利用について調べる。
	○地域が抱えるごみ処理問題と解決方法のとりくみについて考える。	○地域が抱えるごみ処理問題と解決方法のとりくみについて考える。
まとめる (3)	○学習問題について調べたことをまとめる。 ・エコバックで買い物をする。 ・トレイの回収に協力する。 ・使った紙の再利用 ・ごみの回収を呼び掛ける。 ・ごみの分別をする。 ・あまった広告でゴミ入れを作る。 ・資源回収に協力。 ・ごみ置き場の掃除を協力する。	○学習問題について調べたことをまとめる。 ・クリーンセンター見学を通じて、1日の費用を考えると、印西市のごみが多いことが分かった。3Rの実践が必要。 ・家庭や地域でも取り組んでいることから、自分たちにもできることを行うべき。
	⑤ごみをへらすためには、一人ひとりが自分にできることを考え、行動することが大事。	
	○身近な取り組み方法についてまとめる。	○身近な取り組み方法についてまとめる。
	○グループ発表を通じて、ごみを減らすための工夫について理解を深める。 仮説2	○グループ発表を通じて、ごみを減らすための工夫について理解を深める。 仮説2
広げる (1)	○自分にできることをとりくむ。	○自分にできることをとりくむ。

※総合的な学習の時間、「めざせエコキッズ」と連動して、導入部分に当たる「ごみの分別」の授業を印西市クリーン推進課に依頼して行う。ここで、地域の資源や環境問題について調べたり、自分の生活の中で無駄をなくしたりする活動を通して、環境や資源を大切にすることにつながることに気付き、進んで省エネを実践したり周囲の人に伝えようとしたりする態度を育てる。

(4) 仮説に関する授業の実際

第1時

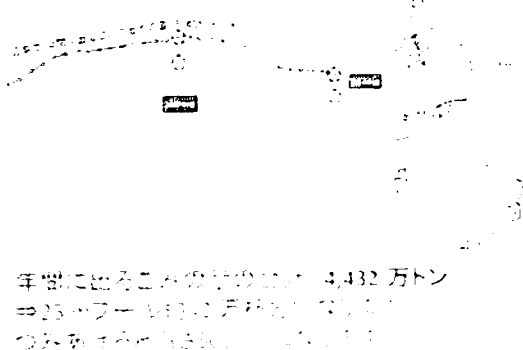
【仮説1】 手立て① 印西市クリーン推進課による出前授業→分別の仕方



燃やせるごみはほとんどない！
3R活動をすれば・・・。

こんなに多くのごみが出ていたなんて！

日本のごみの量



- ・印西クリーンセンターのごみの量は、1年間分→56000トン。25mプール 約530杯分。
- ・積み上げると高さ631m、スカイツリーと同じくらいの高さとなる。
- ・みんなが出すごみの量→1人が1日で837g 1人が1年で306kg 4人家族で約1.5トン。
- ・ごみを減らすのはなぜか？→住みやすい環境を守るため。大切な資源を無駄にしないため。ごみの処理にはたくさんのお金がかかるため。
- ・ごみを減らすための3Rが大事！→資源物とごみをきちんと分別するとごみが減る。
- ・小学校のトイレトーパーは再生紙→紙パック6枚でできる。雑紙としてリサイクルできる。

第6時

【仮説1】 手立て② リサイクル業者見学→リサイクル及び働く人の苦勞



徒歩10分のところにこんなところがあったなんて！
しかも、同級生の父さんの仕事場！

- ・スプレー缶は、ここでガスをきちんと抜いて処理していた。手作業で、危険が伴う。
- ・瓶は、匂いがするので洗って処理して、色分けして置かれていた。道路にも再利用して使われていることが分かった。
- ・テレビなどは、また別の業者の手に渡り処理される。
- ・最初に重量を量り、その差で計算する。

空き缶は、プレスされて、四角い形になるのか。縦にはつぶさないようにしよう。業者の人が大変だ。



第7時

【仮説1】手立て③ 印西クリーンセンター見学→印西市のごみの処理の仕方



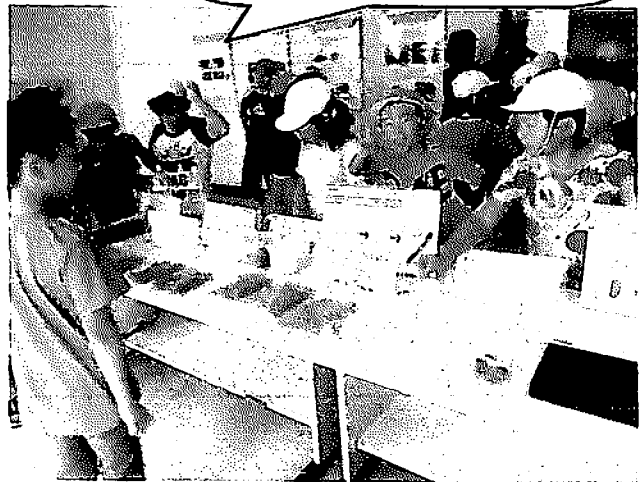
大きなクレーンでつかんで、ごみピットへ運ばれて、焼却炉に
いって燃やされるのか。

3R で勉強したことや、リサイ
クル業者で言われたものが、こ
こにある！
こんなものになるんだ。

- ・燃えるごみは1日約270t (計量器)
- ・大きなクレーン (ごみピット→焼却炉)
- ・有害なものを取り除く (排ガス処理装置)
- ・コンピューターで工場を管理 (中央制御室)
- ・ごみをもやした熱の再利用 (発電システム)

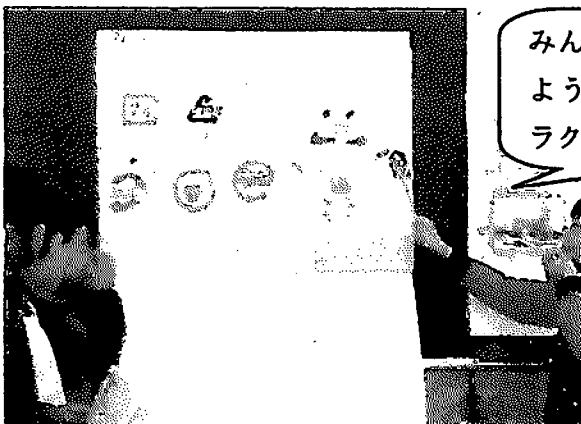


ビルなどの冷暖房, 温水プールのエネルギー
として利用している。



第13時

【仮説2】手立て③ グループ発表 (手立て①, ②については資料P9, 10を参照)



みんなが協力しやすい
ようにマスコットキャ
ラクターを考えました。

ごみを燃やすと1tにつき、
24,500円かかります。1日に約
270t燃やすとなると、
6,615,000円もかかってしま
います。



印西クリーンセンターの処理方法の復習
です。課題として、新しい処分場を探すの
が難しいそうです。これから、さらにごみ
の減量が必要となってきます。

8 仮説の検証

検証は、仮説1「主体的な問題解決」については、抽出児童のノート記述、ワークシートの記述をもとに、仮説2「実践しようとする力」については発表資料の内容をもとに、以下の評価基準で行った。

(1) 仮説1「主体的に問題解決をしようとしているか」

評価	評価基準	文例
A	地域のごみの処理に関する問題を地域の実情と関連させて考え、それについて解決しようとする意欲をもとうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市は人口が増えているから、ごみを減らす努力をしないといけない。 ・処分場がいっぱいになってしまうから、ごみを減らすようにしないといけない。
B	地域にはごみの処理に関する問題があることに気づき、それについて解決しようとする意欲をもとうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみが増えないように、ごみを減らす努力をしないといけない。 ・クリーンセンターやリサイクル業者の方に危険がないように、正しいごみの捨て方をしないといけない。
C	地域にはごみの処理に関する問題があることに気付いているが、解決しようとする意欲が十分にもてていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみのポイ捨てをしてはいけない。 ・ごみを減らすのは大変だと思った。

評価	評価基準	29年度	30年度
A	地域のごみの処理に関する問題を地域の実情と関連させて考え、それについて解決しようとする意欲をもとうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビなどの粗大ごみはどのように処理しているのだろうか。これからは、<u>親にも教えて一緒に分別</u>やごみ捨てをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが捨てたごみが<u>あふれそう</u>になっていたので、このごみ問題を解決したい。
B	地域にはごみの処理に関する問題があることに気づき、それについて解決しようとする意欲をもとうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・スプレー缶は全部使い切ること。つぶしすぎないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとごみを減らしたい。
C	地域にはごみの処理に関する問題があることに気付いているが、解決しようとする意欲が十分にもてていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりやりたくないだらうなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大変だな。

【考察】

印西市クリーン推進課による出前授業では、29年度、30年度共にリサイクルの仕方に興味をもち、3Rが心に残ったようである。その後の発表で3Rが大事ということがよくでてきた。

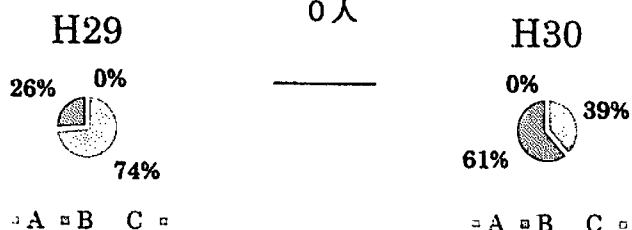
リサイクル業者見学では、「これからは缶の中身をきれいにしてから、出していこうと思いました。」など自分にもできることをしていこうとする発言が見られた。働く人の苦勞を知ることで、自分には何ができるのか考えるよい機会となった。

印西クリーンセンター見学では、今まで学習してきたことが多く、まとめとなった。後の発表などで、リサイクルしていく必要性や、分別していことの大切さがよくでていた。

身近にある地域教材を扱った結果、子ども達の多くが地域のごみ問題に関心をもち、自分達にできることはなんだろうかと考えるようになった。

(2) 仮説2「実践しようとしているか」

評価	評価基準	29年度 子どもの記述内容	30年度 子どもの記述内容
A	地域の問題について書かれており、問題解決も考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市を守るためには、ごみを減らさなければなりません。 ・この結果から<u>地域の人たちがリサイクルに協力している</u>ことが分かります。私たちは<u>正しい基準でリサイクル</u>をしたいと思います。 <p>A 26人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>印西市の人口は増えてきているのに、ごみの量は増えていないのは、一人が出すごみの量が減ってきているからです。</u> ・ごみは種類別に出し、スーパーへはマイバックをもっていき、<u>簡単なことからごみをへらす取り組み</u>をしてみましょう。 <p>A 11人</p>
B	地域の問題は考えているが問題解決を考えていない。その逆。	<ul style="list-style-type: none"> ・燃えるごみと燃えないごみがまざっていると、危険だったりするので決まりを守って欲しいと書いてありました。これを見た私たちはごみをリサイクルしたり、分別したりしたいと思います。 <p>B 8人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターで働いている人の仕事を減らし、環境を守るために、3Rを心がけましょう。 <p>B 17人</p>
C	地域の問題や問題解決も考えていない。	C 0人	0人



【考察】

29年度、30年度の児童も地域の問題に関心をもち、ごみを減らすためにはどうしたらよいかということを考えることができた。このことは、地域教材を扱ったことにより、分別の方法を実体験できたことやリサイクル業者から生の声を聞いたことが大きかったと考える。印西クリーンセンター見学では、学習してきたリサイクルされた物があり、地域の環境問題に気を使っていること、ごみを埋め立てる場所が少なくなっていることなどを知り、自分事として捉えていけるようになったのではないだろうか。

9 成果と課題

<成果>

- ・身近な地域の教材を活用したことで、多くの児童が地域の問題に関心をもち、主体的に問題解決をしようとする意欲をもつことができた。
- ・実際にごみ処理に関わっている方から直接話を伺うことで、児童が切実感をもってごみの問題やその解決方について考えることができた。

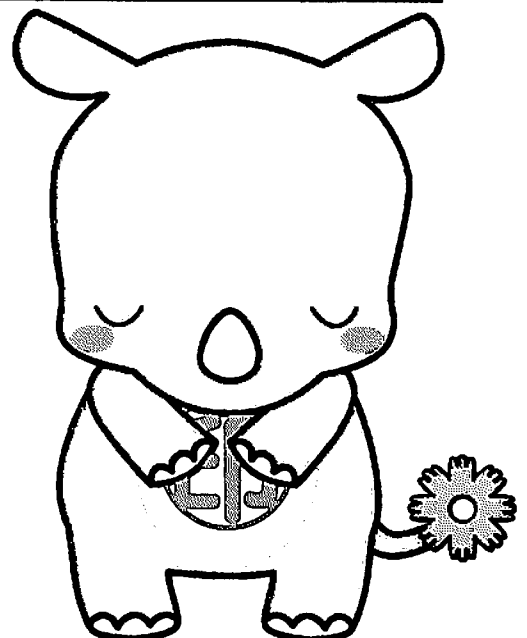
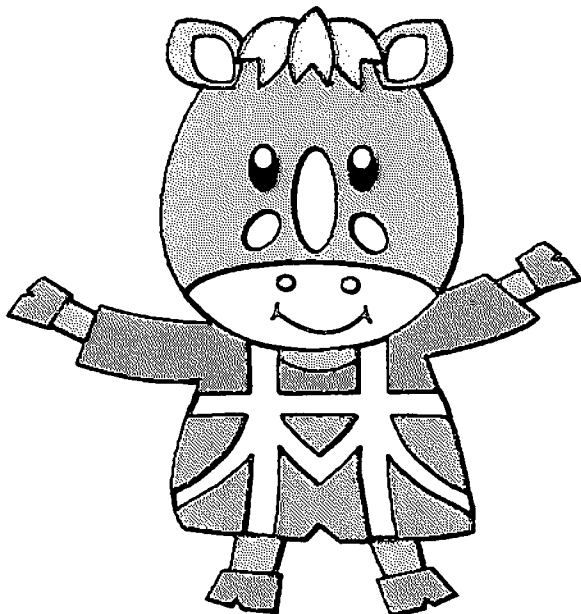
<課題>

- ・児童同士のグループ発表にとどめず、保護者や地域の方々などを対象にして発表を行い、自分たちの考えをさらに広めていこうとする取り組みも進めていきたい。
- ・1割前後の児童の意欲が高まらなかった。より切実感をもつような手立ての検討が必要である。

資料編

目次

	項目	ページ番号
1	事前・事後追跡アンケート	1～7ページ
2	地域の問題に関心をもった資料	8ページ
3	仮説に関わる資料	9～10ページ
4	ワークシート	11～13ページ
5	調べ学習と発表の様子	14～15ページ
6	子ども達の変容の姿	16ページ
7	その後の追跡調査結果から	17ページ



1 事前・事後追跡アンケート

<社会科事前アンケート>

1 社会科は好きですか

H29



29

好き □ 嫌い

H30



14

好き □ 嫌い

2 理由

自分が大人になったときに必要だから	世の中のことがよく分かるから
知らない何かを知ることができるから	覚えやすく簡単だから
他の国のことなども分かるから	農業などの問題や地図記号が好きだから
見学に行って実際に見ることが楽しいから	
社会のことが知れるから	体験ができるから
資料をまとめることが楽しい	国や経済を知ることができるから
日本のことを知ることができる	調べるのが好きだから
他の地域のことも分かるから	100点を取ることができて自信がついた
色々な職業のことが分かるから	普段テレビで見るニュースのことが深く知れるから。
覚えることがちょっと難しい	どちらでもなく普通
字をいっぱい書くのがいやだ	

見学でたくさん知れるから
県と県庁所在地が漢字で書けるようになったし山地や盆地、平野がわかるようになったから
校外学習をすることが楽しい 校外学習で本物を見て学べるのが楽しい
社会科は町のことや世界に関係することだから
文章が少ないから 社会見学や火事、水の勉強が楽しいから
浄水場などが興味を持ったから たまに歴史 都道府県テスト
無回答 印西市がうつっているから

面白くない時があるから。でも、つまらなくもない。

3 社会科で楽しいと思うことは何ですか？

暮らしや農業 グラフを見て考えること
調べもの 分からないところが分かると楽しい
見学に行くこと 実際に見るのが好きだから
昔の人のことを知ることが楽しい（伊能忠敬など）
社会を知ること 紙に調べたことを発表すること
見学でまだ知らないことを知ること
その土地の特徴を調べること
資料を使って調べたり、その資料をまとめること
話し合いをするからです。
地域の気候 新聞作り 都道府県
分かりません 何もありません

見学 平野などの場所や名前を漢字でかけるようになること
いろいろなことを知るとき わかりません
ノートをかいていること
調べ事 都道府県 小林の勉強ができるから

4 資料を使って調べたりすることは好きですか？

H29



好き □ 嫌い

H30



好き □ 嫌い

5 理由

詳しいことが分かるから 資料を見ると興味が湧く
どこでどう変化しているのか考えるのが好きだから
知らないことを知れるから 分かりやすい
知識が増えるから 簡単に調べられるから
色々な場所の特産品、有名なことがたくさん知れるから
自分で考えるのが苦手だから資料を基に考えるほうがいい
資料の中から探すのが楽しい パソコンを使ったり本で調べたりすることができるから
今の現状や過去のことを知れるから

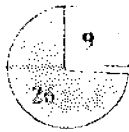
見ても字が読めなかったりするから 資料だけだとそれ以上の情報が調べられない
まとめるのが下手 調べるのが苦手だから 文章をまとめなくてはならないから

絵を描くのが好きだから いろんな情報を知れるから 書いたり調べたりするのが好き
 知らないことを勉強する 読むのが好き パソコンが使えるから
 納得することが書かれている 探るのが好き

難しい 資料の作り方が分からない めんどくさい わかりません

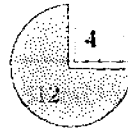
6 調べたことを発表するのは好きですか？

H29



好き ◻ 嫌い

H30



好き ◻ 嫌い

反応が嬉しいから

自分の考えや相手の考えが分かるから

自分自身が目立ちたいから

どのように調べたか伝えられるから

自分の意見を知らせてもらえる

みんなが調べていないことを発表するのが好き

聞いて欲しい

意見や気付いたこと思ったことを伝えられる

発表がそもそも好きではない

恥ずかしい。間違えていると嫌だから

みんなに嫌われるから

自分の意見を言うのが嫌だ

あっているか心配だから

緊張するから

笑われるのが嫌だ

みんなに伝わる 発表が好き 自分の考えを知って欲しい 人それぞれの意見があるから

たまに意見がかぶってしまうから 恥ずかしい あっているかわからない

間違えたらいや うまくしゃべれない

7 話し合いは好きですか？

自分の意見を聞いてもらえるから好き 色々な意見を聞けるから好き

自分の考え、相手の考えを聞いて、もっといい考えが浮かぶから

相手の考えを聞いて、考え方が変わるから 班では自分の意見を言いやすいから

間違っているけど直せるから好き グループやペアだと好き

好きじゃない 話し合いで意見がまとまらなるとイライラするから

考えが思い付かないからいや

少し好き 自分の知らないことが分かる みんな考えを聞くとよい考えがある
それぞれ違う意見だから

H30

8 好きな調べ方は何ですか

資料を使う インターネット 見学に行き実際に見たり聞いたりする
教科書 新聞 本 インタビュー 図

ありません 分かりません

H30

少し好き 自分の知らないことが分かる みんな考えを聞くとよい考えがある
それぞれ違う意見だから

H30

9 ごみ問題に興味がありますか？

あります 少しだけ気になる 分別に興味がある
地球温暖化など人に影響を与えるものに興味がある。
ごみのせいで誰かが困るから ごみの分別のやり方を知っていたから

いいえ よく分からない

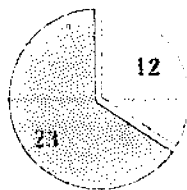
H30

あまりない ない ある 全くない 普通
ごみは世界中のみんなが捨てるものだから興味はあります

H30

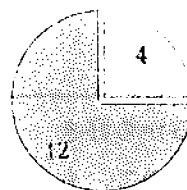
10 クリーンセンターでは、どのようにごみが処理されるのか知っていますか？

H29



はい いいえ

H30

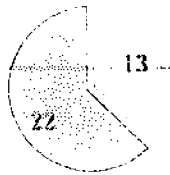


はい いいえ

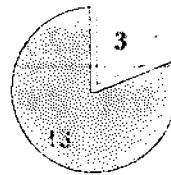
1 1 クリーンセンター以外にごみを処理する身近なリサイクル業者の施設を知っていましたか？

H29

H30



知っていた 〇 知らない



知っていた 〇 知らない

1 2 ごみ問題に関することで知っていることはありますか？

3R 地球温暖化 ごみをそれぞれ分別して処理していること
 ボイ捨て ごみを外で捨てる人がある
 ごみがたくさんある はい リサイクル リユース

3R ない(多数) 再利用できるものがある 廃品回収

1 3 ごみはそのまま捨てられてしまうのでしょうか？

リサイクルなどできるものもあります
 リサイクルなどがあるのは知っていた。
 色々と処理されて捨てられる
 分別して捨てる 燃やしたり何かをしてから捨てるものと思った。

捨てられている 分別する どっかに届けられる 無記名
 多分リサイクル 処理をしている 色々な種類があることだけ知っている
 いいえ(多数) ちがうものになる？

1 4 ごみを処理している人たちはどのような気持ちで仕事をしていると思いますか？

社会のごみを少なくしていこうと思っています。
 みんなのためにできることなら！ ごみをなくす 地球温暖化をなくす
 大変だけどがんばろう 地域の人のためにごみを減らしていく
 世界をきれいにしよう きれいなまちづくりを 小林 印西をきれいにしよう
 このごみは何に変えられるのだろう あまりやりたくないなどの気持ちだと思う
 ちょっと気持ち悪いな 環境をよくしよう きょうもたいりょうなごみがあるながんばろう
 もっとごみを分別してくれればいいのに ドキドキしている(何が入っているか不安)
 何故分別をしないのだろう ごみを減らして欲しい 汚いしあまりやりたくないなあ

大変だなぁ においがきつい ごみが減って欲しい (多数)
 世界中のごみがきれいに処理されて欲しい いやだなぁ あついなあ

15 ごみを処理しているとき、どのような苦勞があると思いますか？

ごみが減らないこと においなど 分別 けがをしたりする 重い
 ストレス 疲れ

分別 におい 分かりません 時間がかかる ごみが散らばって苦勞する

16 ごみが抱える問題点は何だと思えますか？

食べ残しなどがそのまま捨てられてしまうこと 汚くなってしまうこと 地球温暖化
 地球が汚れるごみが減らない 分別 ごみの量が多い お金がかかる
 わざわざ捨てにいくところ

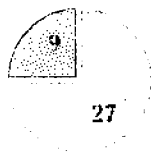
ごみの量が多い 費用がかかる リサイクルできないごみがある
 地球温暖化 ポイ捨て におい 使えるのにすてちゃう

<事後追跡アンケート>

平成29年度 実施人数 36人 平成30年度 実施人数 28人

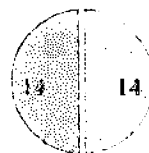
1 「ごみの処理と利用」の後、実際に、ごみゼロ運動などに参加したでしょうか？また、何か自分で
 できることに取り組みましたか？

H29



した ☐ しなかった

H30



した ☐ しなかった

した に○をした人に聞きます。どんな活動をしましたか？

・ごみの分別	16人	・ごみゼロ運動	10人	・リデュース	2人
・エコバッグ	2人	・リサイクル	5人	・廃品回収	1人
・ごみ拾い	3人				

- ・ごみの分別 3人 ・ごみゼロ運動 2人 ・物を大事に使った 2人
- ・マイバック 2人 ・リサイクル 1人 ・廃品回収 1人

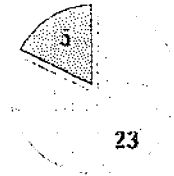
2 これから、何か自分にできることをしようと思いますか？

H29



思う 思わない

H30



思う 思わない

はい と答えた人は、どんなことをしようと思っていますか？

- ・ごみゼロ運動に参加したい 7人 ・フリーマーケット 2人
- ・ごみの分別 12人 ・ごみ拾い 5人
- ・ごみのでるものを買わない 1人 ・リサイクル 5人
- ・エコバッグ 2人 ・ごみを減らしたい 3人

- ・ごみゼロ運動に参加したい 2人 ・ごみを増やさない努力 4人
- ・ごみの分別 7人 ・ごみ拾い 7人
- ・物を大事にする 3人

2 地域の問題に関心を持った資料(「社会を明るくする運動」で「ごみゼロ運動」などを選んだ児童たち)

ゴミの問題について	私には、ゴミの問題について調べてみました。	「社会を明るくする運動」	印西市立小林小学校 四年	ぼくは、社会を明るくするために2つの考えがあります。1つ目は、ゴミゼロ運動についてです。まず、ゴミゼロ運動に賛成する人が良いのが考えました。まず、ゴミゼロ運動とは、ゴミをゼロにするための運動です。かしても協力できたらいいという気持ちがあります。ゴミがゼロにならなくとも、持ち残りの生活を送りたいです。登下校中など、ぼくは、社会を明るくする運動と聞いた時点で、一番最初に思いついたのが、この題名です。	世の中には、水や捨てるしている人がたくさんいます。そういう人達を見つけたら、注意をしたり、本当のマナーを教えてあげたり、自分ができることは行い、そんな調子で自分の町、いや、十津見、いや、日本いや、も、
-----------	-----------------------	--------------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

「社会を明るくする運動」

「社会を明るくする運動」 印西市環境委員会

社会を明るくする運動	四年一組	まがほら、ゴミを、リサイクル	ゴミゼロ運動	ぼくは、二週間前くらいに、リサイクルのゴミ運動をしました。	リサイクル	ぼくたちができるリサイクルは、リサイクルのゴミをリサイクルです。	地域のエッセ	ぼくたちの日本には、ゴミの分別というのがあります。それは、ゴミのかたまりです。なせそんなにゴミがあるのか、それは、ぼくたちがまだ使える物を、もう一回使える物をそのままゴミにしてしま、たためにふんてい、てしま、てい、からです。	そこで役に立つのがリサイクル、リデュース、リリクスです。	リサイクルは、使、て
------------	------	----------------	--------	-------------------------------	-------	----------------------------------	--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------	------------

「社会を明るくする運動」 印西市環境委員会

「社会を明るくする運動」 印西市環境委員会

「社会を明るくする運動」 印西市環境委員会

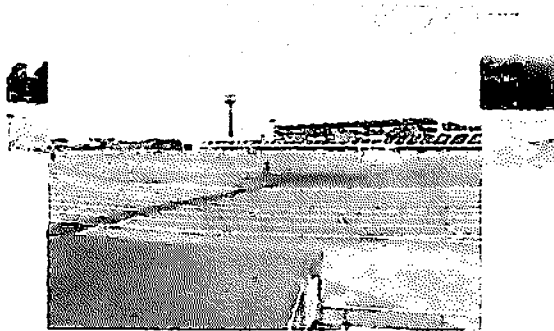
「社会を明るくする運動」 印西市環境委員会

3 仮説に関わる資料

第1時

【仮説2】 ① プレゼンテーション（ごみ集積所の写真や地球環境の問題）

夢の島



夢の島



夢の島



夢の島



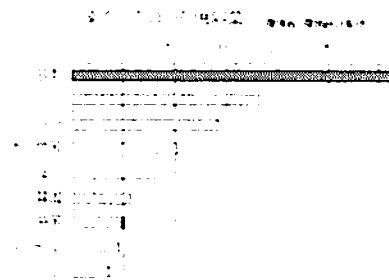
ゴミ問題



ゴミ問題



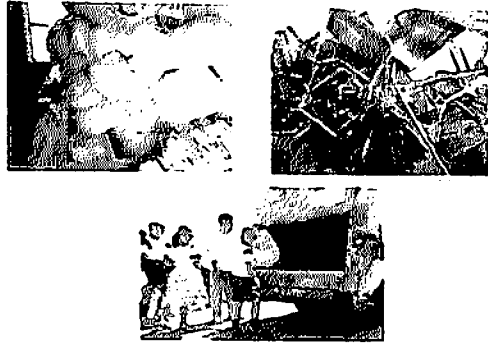
ゴミ問題



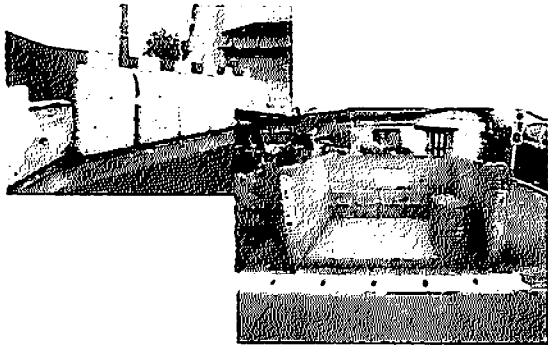
家から出るごみ



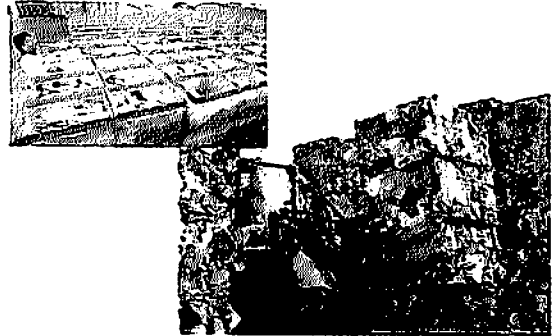
学校から出るごみ



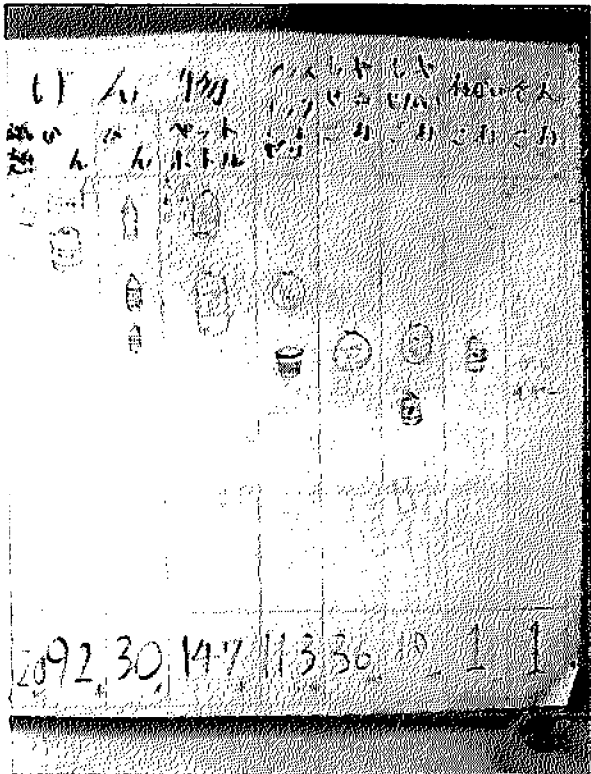
物の分別のうけと



物の分別のうけと



第3時 ごみの分別について調べる資料
【仮説2】 手立て② ごみ調べ (家庭・学校)



・このしりとり分別

・3R {

- ・リデュース
- ・リサイクル
- ・リユース

家から出るごみの量

② 重さを測る!

・何もしてん?

・曜日ごとに測る物は
ちがう?

③

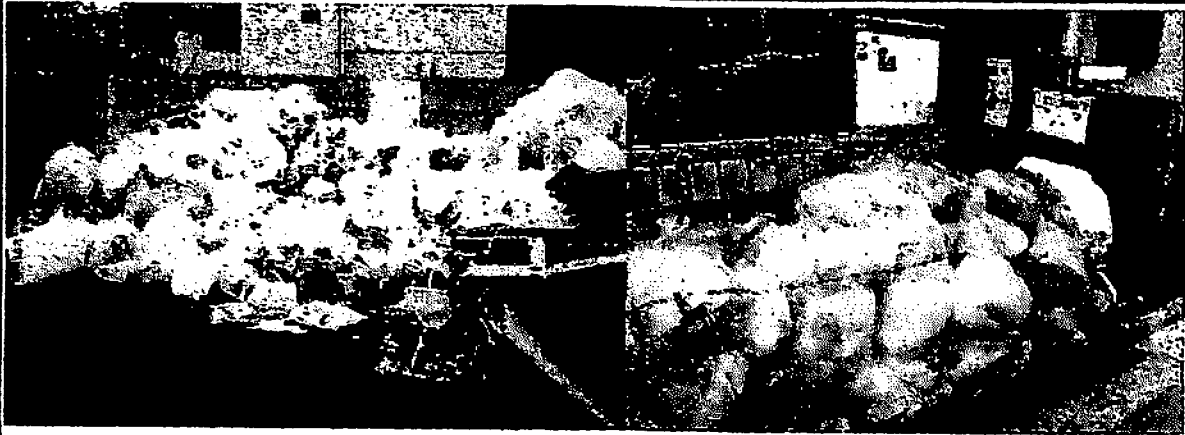
おき... (circled)

10

第3時 ごみの分別について調べるワークシート

～ごみのしよりと利用～

ごみの問題を解決しよう!



上の図から分かることは何でしょう?

①

写真から分かることは、写真の写し方によって、ごみの種類が異なるように見えます。また、ごみの量は多く、分別がされていないように見えます。

しげん物					プラスチック	紙	ガラス	金属	その他
紙	びん	かん	ペットボトル	その他	プラスチック	紙	ガラス	金属	その他
2kg	36kg	43本	74本	67本	32kg	27kg	4kg	2kg	7kg

②

左の資料はあるクラスでまとめた1週間分のごみの量と種類です。多いと思いますか？少ないと思いますか？

多い 少ない

このようなごみを見ていると、このごみはどうなっているのか気になりませんか？

なる ならない

③ 学校では、ごみをどのように処理しているのか？

自分の考えを書いてみましょう。

④ ⑤

それが プリンセンタ - 4人です。

どのように もやしたり リサイクルできるものは、リサイクルをする所に

どう思ったか？ 大変です。

第6時 地域のリサイクル業者見学後のワークシート

—ごみのしよりと利用—



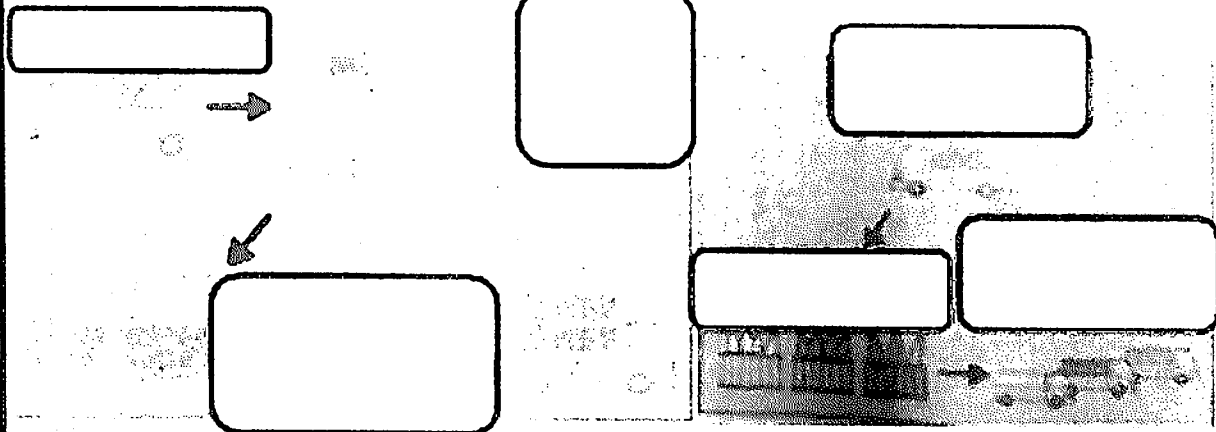
Three empty rectangular boxes for notes, positioned below the photograph.



しよりの回収と上手に使うためのこと

- ・ごみは _____ をしよりにして _____ しています。
- ・ _____ にごみ _____ があるごみ _____ しています。
- ・ _____ を捨てるとき、 _____ を覚えて使っています。

ごみの分別と資源のゆくえ



- ・ごみは、どのようにして、資源になるか？ _____
- ・資源はどのようにして、資源になるか？ _____
- ・資源は _____
- ・資源は、どのようにして _____

見学を通じて、ごみを上手に使うこととして、何を学びましたか？

～ごみのしよりと利用～

印西クリーンセンター



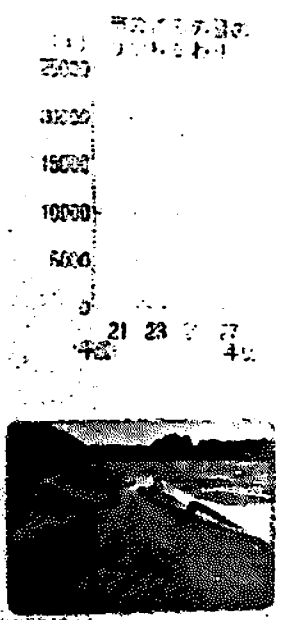
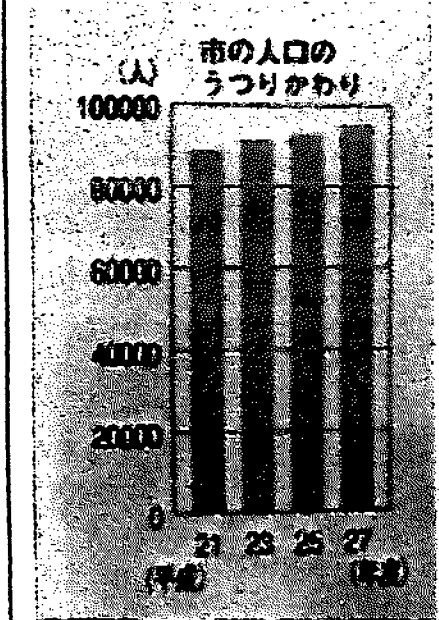
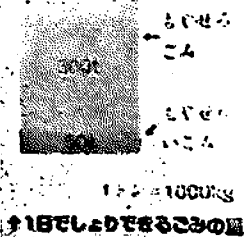
1. 敷地が広い

2. 設備が充実している

3. 環境に配慮している

一番気に入っていることは？
 いかたにおいれた
 ことをして

どのように利用している？
 1. 資源物回収
 2. 燃焼
 3. 灰の再利用



左のグラフ2つから分かることはなんだろうか？
 1. 人口が増えている
 2. 1人1日あたりのごみの量が減っている

- ・もやせる も もやせない も も、むだに も をして、しよりをしている。
- ・ごみをもやして、灰にするためには、1トンにつき、770円 がかかる。では、印西市の1日のかかる料金は？ 770円
- ・灰でうめていくと、新しい 土 をさがすのもむずかしい。

上のあなうめ問題からどんなことが分かるだろうか？また、どうしていくべきだろうか？
 1. 人口が増えているので、ごみの量も増える。
 2. 1人1日あたりのごみの量が減っている。
 3. 灰でうめていくと、新しい土をさがすのもむずかしい。
 4. 資源物回収、燃焼、灰の再利用を推進する必要がある。

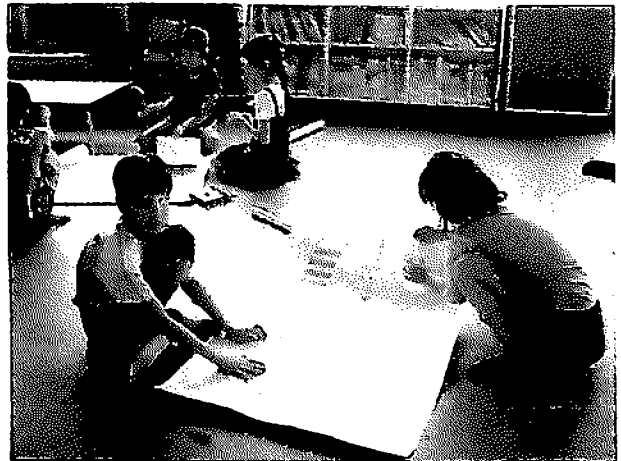
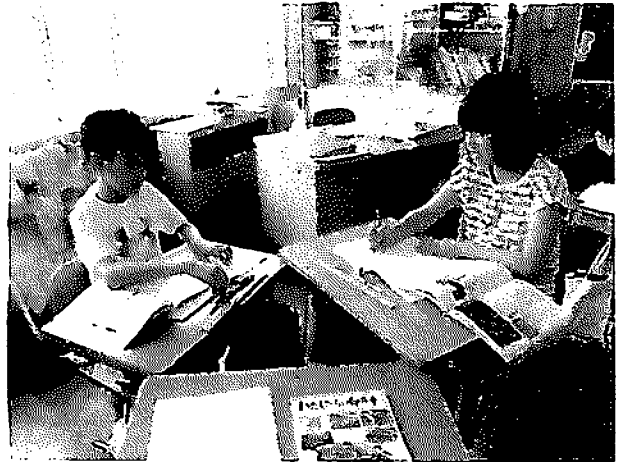
調べ学習と発表の様子

第11時

学習問題について調べたことをまとめる。

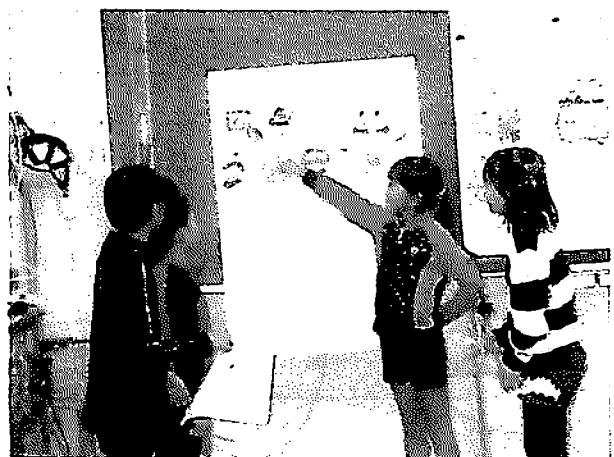
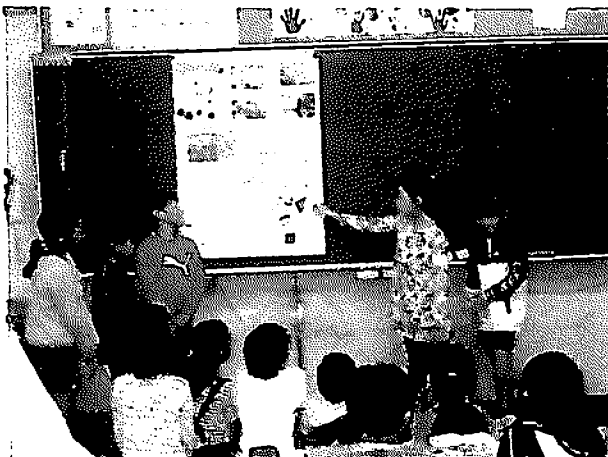
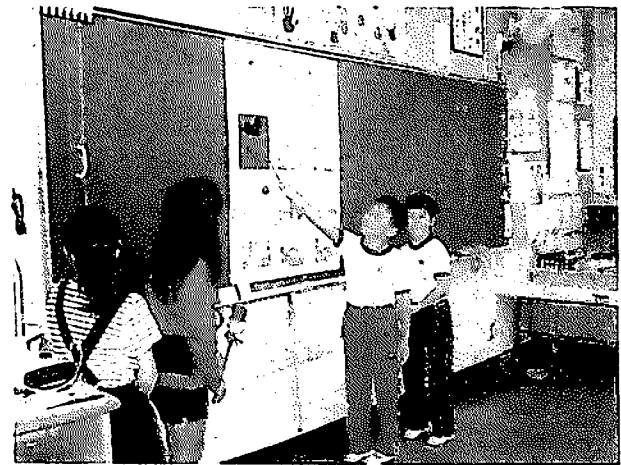
第12時間

身近な取り組み方法についてまとめる。



第13時

グループ発表を通じて、ごみを減らすための工夫について理解を深める。



7 その後の追跡調査結果から

29年度

評価	評価基準	子どもの記述内容
A 72% 26人	実践に移した。 自分にできることを考えている。	・着られなくなった服を年下の子にあげた。 ・ペットボトルを飲み終えたらキャップとついているビニールをはずして分別しようと思います。
B 22% 8人	実践に移した。考えていない。 行動に移していない。考えた。	・町内のごみ拾いに参加したが、今後は自分にできることはしない。 ・行動に移さなかったが、今後はごみゼロ運動に参加してみる。
C 6% 2人	実践に移さない。考えていない。	・勉強したが、なにもしなかった。 ・今後もするつもりはない。

30年度

評価	評価基準	子どもの記述内容
A 43% 12人	実践に移した。 自分にできることを考えている。	・分別や町内会のごみゼロ運動に参加した。 ・落ちていたごみを進んで拾う。
B 43% 12人	実践に移した。考えていない。 行動に移していない。考えた。	・マイバッグでなるべく袋を使わなかった。 ・しなかったが、ごみゼロ運動に参加したいと思う。
C 14% 4人	実践に移さない。考えていない。	・勉強したが、なにもしなかった。 ・今後もするつもりはない。

【考察】

行動追跡したところ、学年があがっても、「これからも環境問題に取り組んでいく」と考えた児童及び、実践した児童が29年度は94%。30年度は86%になった。このことの大きな要因のひとつとして考えられるのは、グループで話し合いを行い、どうしたらごみが減るのかという疑問を探究したからではないかと考える。

参考文献

- ・「小学校学習指導要領」文部科学省 平成29年告示
- ・「小学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省 平成29年告示
- ・「評価基準の作成のための参考資料（小学校）」国立教育政策研究所 平成22年11月
- ・「新学習指導要領の展開 社会編」北 俊夫・加藤寿朗編著 明治図書 平成29年版